看護学の科学領域と学問対象

高間静子

富山医科薬科大学医学部看護学科

はじめに

その学問が独自の学問であるかを問う意味は，その学問を基盤にして生きることを独自の業とする職業にとっては非常に重要となる．字のごとく人間は自然から多くのことを学び知識を獲得し，問つづけることにより自然における事象の仕組みを明らかにして，共存する上での知識基盤を構築している．澤潟久敬氏は学問することとは事実を正確に知る（観察），仮説を立てる（構想），事実によって証明する（実験），仮説を学説とする（承認）の過程を踏むことであり，学説の確立の段階はこのプロセスであるとしている[1]．つまり，論証過程を経た知識の体系化を求めている．看護学が独自の学問として成り立たせるには，その学問を基盤にして活動する看護においては不可欠なものが対象となる．看護学は看護活動上の不可欠な知識として体系化が可能な学問であるという共通認識ができるようになって日は浅く，看護学が研究に耐えうる学問であると認識されて，大学の他の学問群と同等に，看護学を教育・研究する学部・学科が設置されて10年余を経ているにすぎない．しかし，その学問分野を構築するにはその学問分野独自の学問対象が明確であることが重要であるが，看護学では明言されることはなく．看護に関連する近接科学が対象としている領域のことを追究するということに留まっていた．これは看護の基盤となる学問の体系化には何を追究すべきかについての学問対象が明確にされてこなかったことに拠る．本稿では看護学はどのような科学領域に存在するのか，また，何を学問の対象としているかについて述べてみたい．

学問と科学領域

人間を中心に科学をどのようにとらえているかについて調べると，科学は人間を中心にしてどのような構造をなしているかについて改めて整理され，報告されたのは1970年代のことである[2]．科学とは人間による対象認識のしかた及びその内容をさす．1970年代の日本学術会議の答申で，科学領域は人間を中心にしてどのような対象認識のしかたをするかで生命科学領域，物質科学領域，意識科学領域，価値科学領域の4領域に分けている（表1）．

表2には各科学領域と学問対象について示した．生命科学領域では①宇宙のあらゆる生物の生命の構造と機能の仕組み，およびその評価方法，②生命のもつ生活体の仕組み（生態機構），③生物の破壊・修復・再生等の機構とその評価（病理機構，診断，検査）及び改善方法（治療），④生物をとりまくあらゆる事物・現象などに対するその生物の身体的・精神心理的・行動的反応の特徴（反応の査定）とその評価方法（看護診断）および改善方法（看護），⑤生物をとりまくあらゆる事物・現象等の生物への作用とその評価方法（診断）・修復方法等（治療）等を学問の対象としている．それらの科学には生物学，遺伝学，動物学，植物学，医学，農学，分子生物学，水産学，園芸学，畜産学，獣医学，栄養学，衛生学，人間学，針灸学，歯学等が該当するだろう．しかし，当時は看護学は学問の範疇には入れられてはいなかった．人間という生物を対象にしている医学の各領域科学はどの部分を学問の対象としているかについてみると，主として①については解剖学・生理学分野が対象としており，②については医学全般が対象としており，③については病理学，ビールス学・細菌学，免疫学，臨床医学全般が対象としており，

表1　科学領域とその構造

【価値科学領域】	【生命科学領域】
政治学　文化学　情報学　デザイン学 経済学　言語学　観光学 美　術　被服学　経営学 音　楽　宗教学　工　学 統計学　社会学　流通学 財政学　法　学　家政学 教育学　商　学　芸術学 教養学　福祉学　造形学	看護学 歯　学　生物学　保健学 鍼灸学　遺伝学　栄養学 人間学　動物学　体育学 植物学　獣医学 医　学　畜産学 衛生学　農　学　海洋学 分子生物学　酪農学 福祉学　水産学　園芸学
心理学 【意識科学領域】	物理学　原子学 化　学　光科学 地　学　薬　学 天文学　海洋学 数　学 電子学 地球学 地震学 素粒子学 【物質科学領域】

人　間

さらに⑤については主として公衆衛生学，保健医学などの基礎医学・臨床医学全般が学問の対象としている．

物質科学領域では物質の構造と性質の機構，物質間の作用および事物・生物への作用とその評価方法，　物質の製造過程等としている．これらの領域に属するものに化学，物理学，地学，天文学，電子学，地球学，地震学，素粒子学，原子学，光化学，薬学，海洋学等が該当するであろう．

価値科学領域とは人間が生存する上で意味あるものとして生み出された事象・現象・事物・考え方・方法等の価値的存在を追究する科学領域としている．政治学，経済学，美学，音楽，統計学，財政学，教育学，教養学，文化学，言語学，社会学，宗教学，社会学，法学，商学，福祉学，情報学，観光学，経営学，工学，流通学，家政学，芸術学，造形学，史学，デザイン学等がこの領域の属するであろう．

4つ目の領域は心を対象としている意識的科学領域である．この領域はあらゆる動物の精神・心理作用の機構とその評価方法，心理現象の実体と機構および評価方法等を学問対象としている．この領域には人間心理学，社会心理学，企業心理学，児童心理学，犯罪心理学等の心理学全般が所属する．しかし，いずれの科学もその科学が主たる対象としている科学領域のことだけではなく，その他の3つの科学領域が目的としていることを学問の対象としている場合もある．

それでは科学や学問という言葉が頻繁に使われているが，その定義を明確にして，2つの言葉にどのような違いがあるかを比較すると，科学のscienceはラテン語からきている「知識」であり，

表2　科学領域と学問の構造

科学領域	学問の対象
生命科学領域	○ 生命体の構造・機能と評価方法 ○ 生命のもつ生活体の仕組み ○ 生命の破壊・修復・再生の機構と評価・改善方法（病理，治癒過程，再生機構）の評価（検査・診断）と改善方法（治療方法） ○ 事象・現象に対する生活の反応とその評価方法（身体・精神・行動等の反応の性質評価）と反応の仕方と改善方法（看護） ○ 全事象・現象の生物への影響（作用）とその評価・改善方法（予防方法）
物質科学領域	○ 物質の構造と性質，およびその評価方法 ○ 物質間の作用と評価方法 ○ 物質の事象・生物への作用とその評価方法 ○ 物質の製成・製造過程
価値科学領域	○ その科学の人間生存上の意味 ○ その科学が生み出した事象・事物・哲学・方法・機構・理論等の人間にとっての価値と応用 ○ 価値基準の開発
意識科学領域	○ 心理現象の発現機構と普遍性 ○ 心理現象の性質と構造の明確化 ○ 心理現象の評価方法　○病理心理の機構と評価 ○ 心理の変容と要因　○心理の修復・改善方法

その水準は科学的に論証過程を経た知識をさしている．学問はlearningでありギリシャ語からきており，学んだことの実体について真理を明確にし，共通に使用できる知識として洗練させ体系化することである．したがって，この2つの言葉の概念には違いはあるが，論証過程を経た知識しとして共通に使用できるものにし，体系化するということでは一致している．そのために同意味で使用されることがしばしばみられることがある．筆者も科学領域とか学問領域かと問う時，このような意味合いから使用している．したがって，看護学が代替不能の独自の科学（学問）であるかを問う時には，科学的論証過程を経た知識の体系化が可能であるという条件が求められることになる．それでは，看護学にはどのような知識体系が可能かを考えたい．

看護と看護学

看護学が学問として成立させるには，看護を支える基盤になっている学問が看護学であるならば，看護とはどのような業なのか，看護と命名できる独自の活動とは何かを知る必要があろう．1980年のANAの定義では「実際にある健康問題，また

は起こりうるおそれのある健康問題に対する人間の反応を診断し治療することである」と述べ，人間の反応は観察可能な徴候やニード，関心，出来事，ジレンマ，困難，発生，事実であり，看護実践の対象の範囲内にある現象として記述でき，科学的に説明できる」としている[3]．つまり，看護は代替不能性を備えた独自の機能をもった活動ということができる．この活動の基盤としてくるのが看護学であり，学問として位置づけ学ばれるようにするならば，学ぶことができるように論理的に共通の言葉を与えて説明できるようにしておくこと，つまり真理とその体系化をしておくことが必要となる．独自の学問の成立条件には，①学問としての領域が明確である，②その学問独自の対象が明確である．③学問の対象を追究する方法論（考え方）および方法（研究方法）が明確であることが条件としてきている．

それでは，看護学はどのような科学（学問）領域にはいるのかを，日本学術会議編に示している科学領域から検討すると，看護は「生活体として生活する人間が，生活環境における事象・現象に対してどのように反応（身体的，心理・精神的，行動的反応）を示しているかを査定（評価）し，健康生活の概念から判断して改善（治療）したり，また，現存あるいは潜在の健康問題に対する人間の反応を診断・治療すること」であるならば，その知識基盤として何を学問することが重要かを明確にすることが重要となる．ここで提示したことを看護の定義とするならば，①環境に対する人間の反応の性質と評価，②健康問題に対する人間の反応の特徴と性質の評価（看護診断），健康の各レベルにおける改善・治療（看護実践）の方法，改善・治療されたか否かの評価（看護評価）方法等についての知識が，看護活動における基盤学問として体系化することが必要となる．このことを看護の基盤学問の対象として位置づけるならば，生命科学領域の学問対象の④が看護学の主たる学問対象とすることができ，看護学は生命科学領域にあることが説明できる．しかし，看護技術や看護が人間の生存に価値あるものとして産みだされたものとして解釈すると価値科学領域に入り，また，看護学は人間の心理・精神的反応の特徴を評価することをも学問の対象とするならば意識科学領域に入ると解釈できる．しかし，健康問題の評価と改善のためにつながる生き方を支援することに関連することを学問対象とすることから，この学問の究極的目的は，人間の生命の存続・至福に寄与する学問であるということから，生命科学領域としたほうが妥当と考える．

結　語

平成5年度に看護学科が開設し10年目を迎えようとしている．看護学の科学領域も学問対象についても明確にすることもなく，只，看護職は専門職であり，専修学校教育レベルでの教育を受けた看護職では時代の社会的ニーズには対応できない，大学教育での高度の教育が必要だとして発足した．しかし，研究活動の活性度はたかまり，看護に必要な知識の研究は行なわれてきているが，看護学としての知識の体系化が漠然としている．これは看護という活動は明確にされてきているが，その基盤にどのような知識が学問として体系化される必要があるかについて具体的に論じることがなかったことによるものと考える．また，看護学という独自の学問があるとは漠然と認識していても，どのような科学領域にあり，どのようなことを主として学問の対象とするかを論議されることは少なかったことにもよる．開設10年目を迎えるにあたり，只漠然と研究課題がみつかり次第，看護研究を行なうということではなく，看護職にある者は看護の基盤となる学問を明確にし，体系的に構築する作業を研究として意識的に行なうことにより，学問として整備し体系化する責務がある．したがって，看護学は生命科学領域の科学であるという前提にたって，生命科学領域の看護学周辺の学問が主として対象としていることとの違いを考えてみた．看護は現存あるいは潜在の健康問題（課題，現象）に対する人間の反応を診断・治療することであり，看護学は看護活動に不可欠な知識の体系化を行なうために，生活環境における事象・現象に対する人間の反応（身体的，心理・精神的，行動的反応）を把握するための評価方法，現存または潜在の健康問題に対する人間の反応を診断・治

療（看護診断，看護方法）するのに必要な知識を追究することが学問の対象であり，主として生命科学領域の学問と考える．本稿を機会に更に検討が加えられる論議が活発になることを念願する．

引用文献

1）澤潟久敬：医学概論，誠信書房，1967.
2）日本学術会議編：1970年度以降の科学技術について，1970.
3）American Nursing Association：Nursing：A social policy statement，Kansas City，MO. 1980.